

両キッズランドの民営化にかかる協議経過と今後の予定

【平成27年度】

H27. 5. 19 (火) 15:00	第7回子ども・子育て会議
H27. 8. 4 (火) 15:00	第8回子ども・子育て会議
H27. 11. 10 (火) 15:00	第9回子ども・子育て会議
H27. 12. 1 (火) 18:00	キッズランドかみ運営委員会
H28. 1. 16 (土) 18:00	キッズランドやちよ運営委員会
H28. 1. 19 (火) 19:00	キッズランドかみ保護者懇談会 (出席：14人)
H28. 1. 26 (火) 19:00	キッズランドやちよ保護者懇談会 (出席：9人)
H28. 2. 16 (火) 19:30	加美区地域協議会 (出席：委員14人)
H28. 2. 18 (木) 19:30	区長会役員会 (その後、全区長さんへ資料配付)
H28. 2. 26 (金) 19:30	中区地域協議会 (出席：委員8人)

【平成28年度】

H28. 4. 21 (木) 19:30	区長会役員会
H28. 4. 28 (木) 19:30	区長会全体会
H28. 4. 30 (土) 11:20	キッズランドかみ保護者懇談会 (出席：130人)
H28. 5. 7 (土) 11:20	キッズランドやちよ保護者懇談会 (出席：120人)
H28. 5. 20 (金) 15:00	第10回子ども・子育て会議
H28. 6. 1 (水) 20:00	地域との懇談会 (八千代プラザ) (出席：5人)
H28. 6. 2 (木) 20:00	地域との懇談会 (加美プラザ) (出席：13人)
H28. 6. 3 (金) 14:00	キッズランドやちよ運営委員会
H28. 6. 15 (水) 14:00	キッズランドかみ運営委員会
H28. 6. 28 (火) 15:00	子ども・子育て会議が宍粟市・ちくさ杉の子こども園 (公私連携幼保連携型認定こども園) を視察調査
H28. 6. 30 (木) 10:00	未就園児保護者の皆さんとの座談会 (出席：14人)
H28. 7. 3 (日) 09:00	キッズランドかみ保護者懇談会 (出席：19人)
H28. 7. 7 (木) 19:00	キッズランドかみ保護者懇談会 (出席：17人)
H28. 7. 24 (日) 09:00	キッズランドやちよ保護者懇談会 (出席：5人)
H28. 7. 26 (火) 19:00	キッズランドやちよ保護者懇談会 (出席：5人)
H28. 8. 3 (水) 19:30	八千代区区長会
H28. 8. 9 (火) 15:00	第11回子ども・子育て会議
H28. 11. 1 (火) 15:00	第12回子ども・子育て会議
H28. 12. 14 (水) 14:00	キッズランドかみ運営委員会
H28. 12. 14 (水) 19:30	八千代区地域協議会 (出席：委員10人)
H29. 2. 7 (火) 14:00	キッズランドやちよ運営委員会

キッズランドかみ保護者懇談会記録

「公私連携による両キッズランドの運営(民営化)について」

平成28年1月19日(火) 19:00～21:20

出席者：保護者8名、町議1名、

「両キッズランドの民営化が本当にいいのかを考える会」5名

計14名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、足立、多方所長、今中園長、吉井主任

内容：教育長あいさつ

こども未来課からパワーポイントによる説明

意見交換会

■主な意見・質問と回答

- ・建設してからまだ5年しか経っていないのに、なぜいま民営化なのか。
→将来的に民営化したほうが財政的に有利であることと、現状の公立では保育士の確保がなかなか難しいことなどから、民営化を検討している。
- ・民営化になれば、確実に保育料は安くなるのか。
→民営化すれば確実にかなりの経費が節減できるので、子ども・子育て会議で協議し保育料を安くしていくことも含めて考えていきたい。
- ・これまでは公立園で、町が目がずっと行き届く状態であるが、民営化になれば公私連携といいながら、行政の目が行き届くのか。
→行政が深く関わっていく方法が公私連携方式なので、事業者とお互いに連携しながら、また町が指導監督を行いながら進めていきたい。
- ・運営主体が民間になるので、どこまで町の権限があるのか疑問。細部まで意見を言えないのではないか。とても無理のように思う。民間に対して発言ができない。
→協定書のなかでどこまでうたうのか、これから検討ということになる。言うべきところは、しっかり言えるようにしていきたいと考えている。
- ・こども園の運営になれば、保育士の採用について町が意見を言えるか。良い保育士を町に選んでほしい。
→採用試験のことまでは意見が言えないが、良い保育士をこども園に選んでいただきたいと考えている。
- ・説明画面では、町の都合の良いメリットばかりが並べられていて、民営化にもっていく筋道ができていようである。
→まだ決まっている訳ではなく、これから地域、保護者等との懇談会を重ねていき、子ども・子育て会議で協議し、方向性を出していきたいと考えている。
- ・このまま行けば、必ず民営化になるに違いない。
→地域や保護者の皆さんに不安が残ったまま進めていくつもりはないので、今後も懇談会でいろんなご意見をお聴かせいただきたい。
- ・お金がないのなら、はっきりお金がない、民営化させてほしいと単刀直入に説明すればどうか。
→お金のことを前面に出したくはないが、お金のことを出さないことには説明ができないことをご理解いただきたい。あくまでも子どものことを第一に考えていきたい。

- ・保育・教育の質向上のためとうたっているが、具体的に何をやるのか。
→幼稚園教育研修事業の充実や5歳児教育カリキュラムの統一化をやっていきたいと考えている。
- ・子ども・子育て会議での議論が気になる。「民間園に 7,000 万円もの補助金が出ていることに驚いた」（保護者発言）があるが、民営化すれば試算以外にも民間園に対して補助金が必要になるのではないかと。
→認定こども園化にかかる1回のみ補助金で、毎年必要になるものではない。よって、試算以外に補助金が必要になるようなことはないと考えている。
- ・園に不満がある場合、公立園なら保護者が園に対して意見できるが、民間園なら意見しても聴いてもらえないのではないかと。
→民間園に対してもどんどん意見を言ってもらえればと思う。園に対してでもよいし、教育委員会に対してでもよいので、不満がある場合はご意見をお寄せいただきたい。
- ・運営する法人はどのような相手を考えているか。できれば2園を同じ法人に受けてもらうほうが良いのではないかと。
→町内の学校法人または社会福祉法人を考えている。2園を同じ法人に受けてもらうのかどうかは、選定委員会で決めていきたいと思う。
- ・子ども・子育て会議の会議録で、「土地は有償賃貸、建物・備品等は有償譲渡・賃貸とあるが、法人一つで施設を一つ運営している状態ではなかなか買い取るという資金は持っていない。貸与なら・・・検討が必要だと思う」とあるが、条件はどのように考えているか。
→建物は無償譲渡か無償貸与、土地は有料賃貸もしくは無償貸与を考えているが、今後、子ども・子育て会議で協議していきたい。
- ・施設は有料譲渡か、有料賃貸か、無償譲渡か、無償貸与になるのか。町の財産を法人に譲渡または貸与して、営利目的のために運営を任せることは本当に良いのか。
→建物は無償譲渡か無償貸与、土地は有償賃貸もしくは無償貸与を考えているが、今後、子ども・子育て会議で協議していきたい。法人の営利目的のために運営を任せるのではない。児童福祉施設なので、県の監査もあり、利益を出してはいけないことになっている。
- ・運営を受けてくれる社会福祉法人がなければ、どうなるのか。
→受けてくれる法人がない場合は、民営化の話はなしと考えている。
- ・保育料が安くなっても、保育・教育の質が下がるのなら、民営化しないほうがよい。たとえ保育料が上がっても、公立のままでよい。
→保育・教育の質が下がるということは、あってはならないことと考えている。質が下がらない方法を模索していく。
- ・子どものためにきちんとお金を使うようにすべき。庁舎の建設こそが無駄である。
→民営化することによって節減できた経費は、子どものために使うべきと考えている。何に使うのかは、子ども・子育て会議で協議していきたい。
- ・保護者は園に対して不満もないし、何も問題がないのに、なぜ民営化するのか。
→将来的に公立運営ではあらゆることについて厳しくなっていくということ、また民営化したほうが財政的に有利であることなどから民営化を検討している。
- ・もっと具体的な説明をしてもらわないと、イメージがわからない。
→今回は配付資料なしであったが、次回からは資料に基づいて説明をさせていただきたい。

- ・なぜ保護者との懇談会が先に開催なのか。地域との懇談会を先に開催すべきでないか。
神戸新聞に先に掲載されたことも問題。
→子ども・子育て会議で協議の結果、まずは保護者懇談会の開催ということになった。もちろん地域との懇談会も今後、計画していく。
- ・地域協議会にまず意見を聴かなければならないのではないか。中町幼稚園の閉園のときも、地域協議会には相談がなかった。
→今後、必要であれば地域協議会の意見も聴いていく。
- ・民間が運営すればサービスの向上が期待できるとアンケート結果にあったが、設問のあり方にも問題がある。
→平成25年度に保護者アンケート調査を実施したが、設問内容は子ども・子育て会議で協議して決めた。
- ・全国の保護者アンケート調査の集計はあるのか。把握しているか。
→各園がそれぞれの内容で調査をされているので、比較できるものはない。全国的な調査集計のデータがあるかどうかは調べてみる。
- ・中区のこども園では、公立キッズランドや中町幼稚園のような5歳児教育がきちんとできているのか。できていないと思う。保護者の人気取り（ダンスなど）に力を入れていて、机にきちんと座る授業をしていないと聞く。
→各こども園とも年齢に応じた教育・保育を行っていただいております。幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいて実施されている。中区内の民間園も、公立キッズランドと同じように5歳児教育をしていただいていると考えています。
- ・今後の各園の定員は、どうなっていくのか。
→少子化により定員規模は少なくなっていくと思うが、10年後、20年後、30年後、40年後の児童数を予測しており、町内5園で運営ができていくと考えています。
- ・小学校へのつなぎのために、どのようなことを考えているか。
→幼稚園教育研修事業の充実や5歳児教育カリキュラムの統一化をやっていきたいと考えている。また、幼小連携事業など、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校が連携しながら、各種事業を進めていきたい。
- ・公立園の存在意義は重要。民間園、公立園の選択の自由があってもいいと思う。
→公立園、民間園、いろんな選択肢があるのは理想だが、多可町の現状を考えるとなかなか難しい。ご理解いただきたい。
- ・参加者に資料の配布をすべきである。
→今回は画面のみの説明であったが、次回からは資料配付するようにしたい。
- ・もう少し保護者がたくさん参加できるように（特に母親）、時間設定も含め検討してほしい。
→検討させていただく。保護者の皆さんが多くお集まりになる保護者会総会の場合などをお借りすることも含めて検討したい。
- ・サービスが向上するなら民営化もありと思うが、具体的にどうなっていくのかが見えない。
→今回の懇談会ではもう少し具体的な説明をさせていただきたいと考えている。
- ・庁舎の建設も、中町幼稚園の閉園も、すべて決まってからの住民説明会であり、住民の意見が少しも取り入れられていない。みんな行政のやり方に呆れているので、懇談会に

も出席しない。

→まだ方向性が決まった訳ではないので、皆さんから多くのご意見を頂戴したい。

- ・加美区には1園しかないなので、民営化して園が悪くなったとしても、選択できる園がなくなる。

→1園しかないので、悪くならないように、公私連携で取り組んでいきたい。

- ・将来的にも、法人がずっと運営してくれる見込みはあるのか。

→保育所や認定こども園等に対する施設型給付費は続いていくと思うので、法人がずっと運営していただけたらと考えている。

- ・将来的に子どもの数が減っていくなかで、法人が運営できる見込みはあるのか。撤退されたらどうするのか。

→将来的に子どもの数が減っていったとしても、40年後までは町内各園は存続できると考えている。小規模になっても子ども1人あたりの運営費補助単価は上がることになるので、心配なしと考えている。

- ・民営化になれば、園の定員はどうなるのか。0歳児とか1歳児とか、途中入園でも入れるのか。

→現在のキッズランドの定員をそのまま引き継ごうと思っている。入園申込みはできるだけ前年の11月末までにお願いしているが、可能な限り受け入れる方向で考えている。近年、0歳児、1歳児の途中入園が多いので、保育士の配置ができない場合にはお断りするケースも出てくる。

- ・公立園と民間園で、5歳児教育の質に差はあると考えているか。

→差はないと考えている。

- ・民営化について、正面から反対しているのではない。

キッズランドやちよ保護者懇談会記録

「公私連携による両キッズランドの運営(民営化)について」

平成28年1月26日(火) 19:00～20:20

出席者：保護者6名、祖父1名、町議2名 計9名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、足立、萬浪所長、秋山園長、小西主任

内容：教育長あいさつ

こども未来課からパワーポイントによる説明

意見交換会

■主な意見・質問と回答

- ・説明を聞いていて、合併当初から民営化の方向で進むことが決まっていたように感じた。今後の方針決定は、子ども・子育て会議でされるのか。
→子ども・子育て会議で方針を出し、議会で決定をしていただく予定である。
- ・民営化のメリットばかりが並べられているが、デメリットは。
→保護者や地域の皆さんが不安を感じられることが一番のデメリットであると思う。でも、少しずつその不安を取り除いていきたい。他に、正職員が一般事務職に異動しなければならない点もデメリットである。
- ・町内の法人に受けてもらうとのことだが、もし受け手がない場合は。その場合は、町外の法人になるのか。
→現時点では、町内法人で受け手がない場合は、民営化なしと考えている。
- ・キッズの先生方は、今後子どもたちにずっと関わっていくということで各種の研修を受けられていると思うが、町の一般事務職に異動するのはもったいないような気がする。
→ごもつともで、教育・保育に関わる部分では研修の成果は生かされないが、別の視点で将来役に立つことがきつとあると考える。
- ・町内の法人のうち大きな母体ということになると、あさか、みどりになると思う。どちらも宗教色が強く、保護者としては不安。公立でなんとかやる方法はないのかと思う。
→今年度から町内の公立、民間の各園で、同じ内容の保護者アンケート調査を実施している。民間園の結果も見せていただいたが、公立園と同じように保護者満足度が高い結果となっている。そのような心配はないと考える。
- ・何も町内の法人に限定しなくてもいいのではないか。町外ですばらしい教育・保育をしておられる法人に任せることも考えていいのでは。しっかりやってもらえて、特色ある教育をしてもらうことも検討されては。
→町内の法人に限らず、町外の法人も含めて公募をすることも検討していきたい。
- ・今後、公立として運営していくことが困難になっていくことは前々から分かっていたことではないか。もっと前に手を打つ方法がなかったのか。子どものことを最優先に考えることが大切であるのに、どうも数字的なことばかりで説明をされている。
→財政的に厳しくなることは分かっていたので、合併当初から正規の保育士を採用しない方針で今日まで来ている。ご指摘のように、子どもの最善の利益を求めていくことが重要であるので、教育・保育の質が下がることのないように取り組んでいきたい。
- ・公立としてなんとかやる方法がないのか、また町外から多可町へ通う子どもたちが増えるような手立てを考えることはできないのかと思う。どちらかという、民営化には反対である。

- 民営化するほうが国・県からの手厚い補助を受けることができるので、受けることができるものはうまく受けることを考えていきたい。国はいろんなものを民営化していく方針であるし、国に従わない市町村にはさらに厳しい財政措置が講じられる予定なので、ご理解いただきたい。
- ・ 民営化について保護者や地域住民が強く反対した場合、中止や延期はあるのか。
 - 強い反対運動が起こった場合、延期になることはあるかもしれないが、今後、懇談会を重ね丁寧な説明をしていきご理解を得ていきたい。
- ・ 受けた法人が数年で撤退した場合はどうなるのか。また、次の受け手が決まるまでの間はどうか。
 - 撤退ということは絶対あってはならないことなので、事業者を選定する段階で慎重にやっていきたい。将来的にずっと引き受けていただける事業者を皆さんとともに選んでいきたい。
- ・ 公が深く関わるといいながら、法人の運営方針に基づいてされていくような気がする。これまでキッズが大切にして継続されてきた学年活動などの行事は引き継いでもらえるのか。
 - 民営化後は、保護者、町、事業者による三者懇談会の継続開催を考えている。そういった要望は三者懇談会で出していただき、事業者に受け入れていただくよう調整していきたい。
- ・ 先生のことが一番気がかり。嘱託職員の皆さんは残っていただくとしても、あとの3割の先生が集まるのか不安。ベテランの先生方が多く抜けられることになるので、なんとか町から給与を上乗せしてでも残ってほしい。
 - 民間園には保育士の処遇改善分が運営補助金として支給されることになっているので、公立で保育士を募集するより有利であると考えている。正職員にこども園に残ってもらい、給与の差額を町から補てんするのは不可能である。
- ・ 将来、子どもの数が減っていったときに、法人として運営ができていくのか。補助金が減っていき、町から補助金を出す必要が出てくるのではないのか。
 - 将来の子ども的人口予測もできており、少子化が進んでも法人として運営できると試算している。園の規模が小さくなくても、その分、子ども1人に対する運営費補助単価が上がるので、問題なしと考えている。
- ・ 年度によって子どもの数が極端に減る年がある。その場合に、余った先生の賃金やそれに対する補助金はどうなるのか。
 - 入所する子どもの数によって、必要な保育士数を計算している。年度によって子どもの数が減る年があるが、その場合に、余った保育士分の給与は「チーム保育加配加算」や「3歳児配置改善加算」などを付けることにより補助金を受けることができるので、問題なしと考えている。
- ・ 皆さんの思いも、町の思いも、差がないと考えている。子どもたちのことを一番に考え、国から受けることができる補助はできるだけ受け、また民でできることは民でしていただき、子どものための教育・保育の質を高めていきたいと考えている。国も、町も財政事情が苦しいことをご理解いただきたい。国の動きが、民営化を推進する方針になりつつある。町を維持していくためにも、民間との連携を検討していきたい。（教育長）
- ・ 今後、保護者の皆さん、また地域の皆さんとの懇談会をできるだけ開催し、意見交換の場を設けていきたい。さらに、保護者の皆さんが多くお集まりになる場でもご意見をお聴きしたり、アンケートを取ることも含めて検討していきたい。（こども未来課）

加美区地域協議会 記録

平成28年2月16日(火)19:30～
加美プラザ研修室1

◆出席者（敬称略）

藤本典久会長、小林均副会長、山口礼子、木俣孝子、吉川公平、足立吉継、遠藤佐代子、藤原美奈子、足立和喜子、西村久志、丸山幸夫、金高健作、伏原朝臣、藤村正幸、岸原教育長、今中こども未来課長、小林加美地域局長、杉原課長補佐、板倉

■主な意見・質問と回答

- ・3区の保育環境が全く違っていたので、同じになるように取り組んできたところがあるが、どこがどう違っていたのか、また同じにする必要があったのか。
→中区と加美区には5歳児の幼稚園しかなく、3年幼稚園の選択肢がなかったことが大きい。合併当初から、どの区のお子さんとも同じ教育・保育を受けることができる条件整備、そして町内どの園も保育料が同じということを目指して取り組んできた。
- ・町財政の支出を抑えたとあるが、一方で節減できた経費を子どものために使うとある。余った分を全部使うのであれば、支出を抑えることにならないのでは。
→民営化すれば年間に約1億円の経費を節減できるので、そのうちのいくらかを子どものために回したいと考えている。例えば、5歳児の保育料を無料にするとか、他にどのような施策がよいのかを子ども・子育て会議で協議していきたい。
- ・土地は無償貸与もしくは有料賃貸とあるが、差が大き過ぎるのでは。また、建物を無償で渡すのは法人の利益につながるのではないか。
→法人に受けていただきやすい条件とするために、土地は無償もしくは安価での賃貸を考えている。建物については、無償譲渡もしくは無償貸与にしないと補助金返還の必要性が生じるので、そのように考えている。できれば、無償譲渡とし、法人の名義にし、以後の維持管理・修繕経費は法人にお任せしたいと考えている。保育所や認定こども園は児童福祉施設であるので、年間に一定額以上の利益を出してはならないこととされており、2年に1回、県の指導監査がある。あくまでも児童福祉施設であり、利益を出していただくための施設ではないと捉えている。
- ・法人は公募により決定とあるが、考えられるのは中区のあさか、みどり、四恩くらいである。すでに話は進めているのか。3法人とも宗教色が強く、心配である。公私連携型として、宗教色が強い法人に任せてもよいのか。
→町内の法人ということになれば、それに加えて「楽久園会」「千ヶ峰会」も考えられる。話を進めていることはなく、受けていただけるかどうか分からない。中区内の3法人は社会福祉法人であるので、公私連携法人として問題ない。中区内の3園には年に2回、園訪問をさせていただき、教育委員も同席のうえ、各クラスの月案、週案、日案を見ながら訪問指導を行っている。ある園では朝、登園すれば「ののさま」に手を合わせて一日の無事を祈り、降園する際には手を合わせて帰宅している。日本人として感覚的に全く拒否するものではないし、宗教色が強いと感じたこともない。教育委員も同感であり、そのような心配はないと思う。
- ・公私連携型は、どのような内容を協定するのか。
→まず協定の期間を設定し、どの部分までを協定書に盛り込むかが問題である。例えば、法人の理事会に教委職員を必ず入れ、毎回の理事会に出席させるなどをうたうことができる。実際に宍粟市の場合はそうにしている。協定の内容については、子ども・子育て会議で協議していきたい。
- ・民営化が決まった場合、実施は早くていつごろになるか。
→平成29年3月に方針を出し、議会の議決までもっていききたい。もし民営化が決定すれば、法人の公募・決定に1年、法人が決定後に移行準備・合同保育に1年で、最低でも2年はかかる。よって、早くて平成31年4月とな

るが、もっとじっくり進めよということなるかもしれないので、時期は分からない。

- ・ キッズランドかみでは今年、方針が大きく変わり、保護者に対してあまり説明がなかったように思うので、保護者の意見を聴くようにしてほしい。また、キッズランドやちよは建物がかなり古いので、かみとの条件差はどうするのか。
→今年から両キッズで共通した10項目の保護者アンケート調査を実施している。結果はすべて保護者の皆さんにお知らせしており、保護者の方の苦情は教委も理解している。このアンケートは町内すべての園で今年から実施しており、毎年続けていく。民営化に向けては、保護者、法人、町の三者で構成する三者懇談会を継続開催する予定にしており、保護者の皆さんのご意見は大切にしている。キッズやちよの建物はかなり老朽化が進んでいるので、かみと同条件とするために、修繕して渡したいと考えている。ただ、先に建物を法人に譲渡し、譲渡後に修繕をすれば国・県の補助金が出るので、譲渡後に直すことを条件にしたいと考えている。
- ・ 教育・保育の質の確保のために、どんなことを考えているか。民間法人が運営されるのに、補助金を出す必要があるのか。
→一番心配されている部分だと思うが、教育・保育の質が下がることは、あってはならないことと捉えている。町内5園の5歳児教育カリキュラムの統一化を検討しており、平成28年度から作成に取りかかりたいと計画している。また、民間園の保育所や認定こども園等には、国・県・市町村が運営補助をする仕組みになっており、公立園には運営補助がないことをご理解いただきたい。
- ・ 加美区の子が、区域外の施設へ通うという選択肢はあるか。
→できれば区内の施設へ通っていただくのが望ましいが、他の区の施設へ、また町外の施設へ通うことは可能であり、現状でも可能である。
- ・ 子ども・子育て会議で、民営化に絶対反対という方はいるか。
→現状の議論の中で、反対意見を持っておられる方もいる。
- ・ 合同保育、引継ぎ保育は必要なのか。
→子どもたちに混乱が起きないように、早くから民間園の保育士に子どもたちが慣れていただくために、合同保育、引継ぎ保育は必要と考えている。
- ・ 中区内の認定こども園では、合同保育や引継ぎ保育はしたのか。
→中区内の3保育所は、保育所の経験は豊富だが、幼稚園教育の経験がなかったため、3～5歳児担当の先生に県内の各幼稚園で幼稚園教育の研修を受けていただいた。幼稚園研修は、今年2年目になる。
- ・ もし中区の法人が受けた場合、法人の扱いはどうなるのか。
→中区内の運営は社会福祉法人で、加美区、八千代区の運営は公私連携法人ということになる。
- ・ 今後、地域の皆さんとの懇談会、また両キッズ保護者会総会の場合での懇談会などを開いていき、皆さん方のご意見をお聴きし、子ども・子育て会議で方向性を出していきたいと考えている。地域との懇談会にもぜひご出席いただき、いろいろご意見をお聴かせいただきたいと思います。（こども未来課）

中区地域協議会 記録

平成28年2月26日(金)19:30～
多可町役場第1会議室

◆出席者（敬称略）

橋本勝明会長、藤浦重美、吉田隆夫、内橋志郎、藤原 孜、南畝一郎、眞鍋秀男、
時永尚樹
岸原教育長、今中教育総務課長、今中こども未来課長
原地域振興課長、板倉主査

■主な意見・質問と内容

- ・民営化の理由として、町財政の支出を抑えていくため、また子どもたちに借金を残さないために経費の節減を図っていくという説明があった。その一方で、節減できた経費を子どもたちのために使うとあるが、節減できた経費をどの程度、子どものために使うのか。
→節減できたお金の一部であり、2,000万円とか3,000万円とか、4,000万円とかを子どもたちのために使いたいと考えている。具体的に何に使うのかは、子ども・子育て会議で協議していきたい。
- ・中区では3園の運営実績があるので十分に対応可能という説明があり、後半の部分では町内の法人で公募したいと書かれているが、中区内の3園に限定をするということか。
→町内の法人ということになれば、3園以外に、楽久園会、千ヶ峰会もあるが、受けていただけるかどうかは話もしていないので分からない。町内の法人で信頼できる人をお願いするほうが、加美や八千代の皆さんに理解していただきやすいという思いから、とりあえず町内と書いた。町内に限定せず、もっと公募の範囲を広げてやるほうがよいという意見が出れば、子ども・子育て会議で協議していくことになる。
- ・教育・保育の質が下がることのないようにと書かれているが、民営化になれば質が下がる心配があるのか、どうも心配があるような書きぶりであるが。
→民間が決して悪いということではなく、公立も民間も教育・保育の質向上に向けて一生懸命に取り組んでいただいており、差はないと理解している。質が下がることがあってはならないことなので、そのような意味を含めて書いている。
- ・民営化が決定すれば、どのくらいのスケジュールで実施になるのか。
→仮に民営化が決定すれば、法人の公募、決定に1年、法人が決まったあと三者（保護者、法人、町）懇談会を設置し、合同保育のあり方などを調整していくのに1年と、最低でも2年はかかるとみている。早ければ最短で平成31年4月ということになるが、民営化の実施時期も含めて、子ども・子育て会議、三者懇談会等で協議していきたい。
- ・民営化が進めば、こども未来課の仕事は少なくなっていくのではないか。
→民営化をしても、こども未来課の仕事は減らないと理解している。園所長会や園訪問はこれまでと変わらず開催していき、各園との連携をしていかなければならないし、また、町内保育料の調整やすべての園の入退所事務などはこども未来課がやるべき仕事なので、今まで以上に仕事はあると考えている。
- ・両キッズランドの耐震化工事はできているか。
→両園ともできている。
- ・土地はすべて町有地なのか。
→キッズランドかみの土地はすべて町有地で、キッズランドやちよの土地はほとんどが町有地で、一部、個人からの借地がある。
- ・建物は無償譲渡もしくは無償貸与とあるが、なぜ無償なのか。
→建物を建設する際に国・県から補助金をもらっているため、補助金返還をしなくてもいいように、無償譲渡もし

くは無償貸与としたい。できれば無償譲渡をして、あとの維持管理はすべて法人にお任せできればと考えている。町の建物であれば修理の際に補助金が出ないが、法人に譲渡すれば修理の補助金が出る。

- ・キッズの正職員、嘱託職員はそれぞれ何人で、どうなっていくのか。

→両園合わせて正職員が15人、嘱託職員が37人いる。正職員については、こども園の職員として採用してもらうのか、町の一般事務職へ異動するのかの選択になるが、恐らく多くの職員が町の一般事務職へ異動を希望すると考えている。民営化後の数年間は2園へ数名ずつ、町職員からの派遣としてこども園に行くことになるが、数年後には全員が引き上げることになる。嘱託職員は、できるだけ法人に職員として採用していただくように調整していきたい。

- ・嘱託職員、臨時職員は、認定こども園の正規職員として採用になるのか。中区の3園の現状は、正職員ばかりか。

→キッズの嘱託職員はできるだけ法人の正職員として採用してもらうように調整していきたいと思うが、採用試験、採用するのは法人であるので、全員が採用になるかは分からない。キッズの臨時職員は、時間給対応の職員であり1日に数時間の勤務であるので、正職員への採用はまず難しいと思う。現状で、中区3園には、正職員と、時給対応の非常勤職員がそれぞれおられる。

- ・やちよの建物は何年経っているのか。修理してから渡すのか。

→かみが5年、やちよが16年経過している。やちよについては、かみと同条件とするため修理してから渡したいと思うが、譲渡してから修理すれば国・県の補助金が使えるので、譲渡後に修理を考えている。

- ・引継ぎ保育では、キッズの正職員が何年ほど派遣されるのか。

→町職員という立場で、こども園への派遣ということになるが、2園へ数名ずつの派遣を考えている。派遣の年数については、とりあえず2～3年を考えているが、年数と人数については子ども・子育て会議、また三者懇談会で協議していきたい。

- ・「ご意見やご質問があれば、こども未来課へお願いします」とチラシにあるが、この用紙はどこかへ配付されるのか。

→平成28年4月号の広報たかへの掲載を予定している。今後、保護者や地域との懇談会でもこの資料を使って説明し、また区長会へも説明をしていきたいと考えている。

- ・建設事業にかかる起債の償還は残っていないのか。

→キッズやちよについては、平成27年度末残高が9,600万円で、平成32年3月まで償還が残っている。かみについては、平成27年度末残高が2億3,400万円で、償還は平成39年3月まで残っている。いずれにしても返金しなければならないので、今後の交付税の減額を考慮すると、両キッズを民営化して国・県の補助を受けるほうが有効と考える。

キッズランドかみ保護者懇談会記録（保護者会総会後に開催）

「公私連携による両キッズランドの運営（民営化）について」

平成28年4月30日（土）11:15～11:45

出席者：保護者 約130名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料による説明

意見交換会

■主な意見と内容

- ・ 公私連携幼保連携型認定こども園の事例は近くにあるか。
→この制度は昨年4月にできたばかりなので関西でも事例が少ないが、兵庫県内に1つ、宍粟市の「ちくさ杉の子こども園」がある。旧千種町は加美や八千代と同じように、公立園しか経験のない地域で、民営化にもっていくのはかなり難しかったようであるが、公私連携方式で取り組み、成功した事例である。
- ・ 公私のそれぞれ良いところを織り交ぜながら、とあるが、それぞれ良いところはどこか。
→今までずっと公立で続いてきたので、保護者の皆さんに安心していただける点であると思う。民間の良いところは、国県から手厚い補助金をもらえるので、お金をいろんなことに使える点である。公立・私立にかかわらず、同じ教育・保育を受けている。
- ・ 公立も私立も、子どもたちは同じように教育・保育を受けていると理解してよいか。
→公立も私立も、国が示している保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいて教育・保育を行っており、どれも5つの領域に沿って指導している点ではまったく同じである。
- ・ 民営化のメリットばかりが並べられているように思うが、デメリットはないのか。
→民営化になれば数年後にはキッズランドの正職員がすべて抜けてしまうことになると思うので、これが一番のデメリットであると考えている。保育士経験の長いベテランの先生方が抜けられることになるが、7割の嘱託職員がほぼ残ることになると思うし、民営化後は法人からベテランの保育士さんが園長、主任としてお越しになることになるので、今と変わりなくしっかり教育・保育をやっていただけたと考えている。
- ・ 4園を統合しキッズランドかみができたのがついこの間のように思うが、早や民営化の話が出てくるとは、と皆さんが思っていると思う。先ほど、宍粟市の事例をお聞きしたが、その後保護者からどのような意見が出ているのか、アンケートなどを含めてしっかり調査してほしい。
→私たちも一番気になっていることなので、宍粟市の事例をしっかり調査し、今後の検討に生かしていきたいと思う。昨年6月に宍粟市を視察させていただいたが、運営1年後の経過が気になるので、ぜひ子ども・子育て会議で再度見に行かせてもらいたいと計画中である。

大勢の皆さんの場ではなかなかご意見も出にくいと思うので、ご意見はキッズランドまたはこども未来課へお寄せいただきたい。また、キッズランド選出の子ども・子育て会議委員さんにお伝えくださってもよい。皆さんからのご意見をいただく方法は、今後、所長、保護者会長様と相談し、決めていきたい。6月2日（木）午後8時から加美プラザで開催の「地域との懇談会」にぜひお越しいただきたい。

キッズランドやちよ保護者懇談会記録（保護者会総会後に開催）

「公私連携による両キッズランドの運営（民営化）について」

平成28年5月7日（土）11:30～11:55

出席者：保護者 約120名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料による説明

意見交換会

■主な意見と内容

質疑・意見は、なし。

大勢の皆さんの場ではなかなかご意見も出にくいと思うので、ご意見はキッズランドまたはこども未来課へお寄せいただきたい。また、キッズランド選出の子ども・子育て会議委員さんにお伝えくださってもよい。メールによるご意見は、こども未来課 kodomo@town.takagi.jp へ。6月1日（水）午後8時から八千代プラザで開催の「地域との懇談会」にぜひお越しいただきたい。

公私連携による両キッズランドの運営にかかる 地域との懇談会記録（八千代会場）

平成28年6月1日（水）20:00～22:00

場所：八千代プラザ

出席者：5名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料による説明

質疑応答・意見交換

■主な意見と内容

・キッズランドの嘱託職員が毎年、民間園からたくさん引き抜きをされている実態の報告があったが、公立の職員のほうが民間園よりも給与が高いのではないのか。

→公立の嘱託職員は、民間園の正職員よりも給与が低い状況である。また民間園の保育士はここ数年処遇が少しずつ改善されてきているので、民間に移れば給与が良くなるということや、正職員になれるということで民間園に職員が流れている状況である。

・仮にキッズランドやちよを楽久園会が受けることになって、将来、俵田地区にある高齢者施設に空きが出てきた場合に、こども園の拠点を俵田地区に移したいということになったらどうなるのか。

→キッズランドやちよの施設を改修し法人に譲渡したいと考えているので、ここを拠点に永くこども園として運営していただくように公私連携法人の協定をしたいと考えている。よって、こども園の拠点を移すようなことは町として認める訳にはいかない。公募の段階でも、条件をはっきり伝えたいと思う。

・先ほど町内に拠点を置く法人で、という説明があったが、町内の消費循環を考えたときに「できれば町内」ではなく、絶対に町内法人にしていってほしい。

→教育委員会事務局としても、そのように考えている。

・キッズランドやちよができたときの経緯を考えても、「地域の子どもたちは地域で育てる」ということをコンセプトにしている。その意味からも、町内法人のほうが地域の人たちに受け入れられやすいと思う。

→町内で受けていただける法人がなければ町外法人でもよいのでは、というご意見を懇談会の場でいただいたので、そのあたりも含めて子ども・子育て会議で協議していきたい。

・子どもたちのことを一番考えているのは地域の人たちであるので、地域の人たちで構成するNPO法人や地域立で社会福祉法人を設立して運営する方法はどうか。

→近くでは丹波市がその取り組みをされている。ただ保育所等の運営の経験があり、運営のノウハウをお持ちの法人のほうがスムーズに移行できると思うので、これから法人を設立して大丈夫なのかという不安は残る。今後、子ども・子育て会議で協議していきたい。

・宍粟市のうまくいった事例が報告されたが、スタートできるまでにどのくらいかかったのか。また、宍粟市内の他の地域はどうか。

→保護者や地域の人たちと話し合いを続け、2年ほどかかったと聞いている。できる地域から取りかかったそう、他の地域はまだこれからのである。

・認定こども園制度がスタートして10年ほどになると思うが、最近は認定こども園になる手続きが比較的簡単になっていると聞く。公立の認定こども園になるという考え方はないのか。

→申請して公立の認定こども園になることも可能であるが、施設型給付費がもらえる訳でもなく、メリットがみつからない。よって、公立の幼保連携型認定こども園になる考えはない。

・法人が受けるにしても、やはり黒字経営ができないことには受けてくれないので、経営ギリギリのところまで保育士の数も十分に確保できず、良い教育・保育ができるのか不安。教育・保育の質が確保されていくのか。

→民営化すれば国・県・町から運営費補助を受けることができるので、十分に利益は出ると考えている。公立以上に民間のほうが職員配置にしても良くなる。公私連携で教育・保育の質向上に取り組んでいきたい。

・最近特に0歳児の途中入所が多いと聞くが、多可町でどんどん子どもを産んでもらえるように、0歳児もできるだけ受け入れるようにしてほしい。公立なら受け入れ可能だが、民間園なら無理ということだけではないようにしてほしい。

→民間園のほうが手厚い人員配置が可能なので、公立、私立に限らずできるだけ受け入れていく方向で取り組んでいきたい。

・5歳児教育も大切であるが、3歳までの教育が大切であると思う。幼児期の教育、親育ても含め、町ではどのように取り組んでいるか。

→保護者同士の交流の場づくりや子育ての悩み相談、親育ちの講演会開催など、子育てふれあいセンターを中心に取り組んでいる。

・公立の経験しかない加美区、八千代区の人たちにとって、公立の安心感、民営化への不安は大なり小なりあるのは事実。でも公立だから良いということにはならない。公も民もそれぞれ良いところがあり、特色ある教育・保育がされていると思う。公立、民間の差はないと思うが。

→おっしゃるとおりで、公立も民間もそれぞれ特色あるカリキュラムで取り組んでいただいており、差はないと理解している。公私が連携していかに教育の質を高めていくかであると思う。

・むしろ公立がダメであると思う。キッズランドの嘱託職員の一部は、職員としてなっていない。正職員の嘱託職員への指導のあり方にも問題があるし、教育委員会がキッズの正職員にしっかり指導ができていないと思う。

→問題があれば、その都度、職員に対して指導を行い、すぐに改善するようにしている。

・公私連携がミソであり、町がいかに関わっていくかがポイントである。宍粟市のように運営協議会を設けるなどして、良い方向で検討していただきたい。

→宍粟市のちくさ杉の子こども園には、多可町の子ども・子育て会議として視察研修に出向く予定にしている。十分に調査し、今後のあり方は子ども・子育て会議で検討していきたい。

・保護者や地域の皆さんの不安を払拭して、数多くの意見を聴く場を設けてほしい。懇談会を重ね、理解をしてもらえるまで開催していくことが必要。保護者の皆さんが多く集まる場をとらえて懇談会を開いてほしい。

→キッズランドの保護者の皆さんとは保護者会総会のときにお時間をいただき懇談会を開いたが、十分に時間が取れず多くのご意見をいただくことができなかった。よって、改めて日曜日の午前中と平日の夜の2回に分けて再度、懇談会を計画している。また、これからこども園やキッズランドに通うことになる未就園児の保護者の皆さんとの懇談会も計画している。ほかに、八千代区区長会からの懇談会も申込を受けている。できるだけ多くの場を設け、丁寧な説明をしてご理解を得ていきたい。

公私連携による両キッズランドの運営にかかる 地域との懇談会記録（加美会場）

平成28年6月2日（木）20:00～21:45

場所：加美プラザ

出席者：13名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料による説明

質疑応答・意見交換

■主な意見と内容

・中区の認定こども園化をして、良くなった点を教えてほしい。また、民営化の目的でお金のことを言われているが、教育・保育の質を高めることなどはないのか。

→保護者にとっては3年幼稚園ができたことが大きい。また、これまでは4歳児までは3園にいて、5歳児になれば中町幼稚園に行って小学校へ行くことが多かったが、5歳児まで同じ園に在籍することができ、小学校へ行けるようになったことが良かった点であると思う。それと、中区内の3こども園は5歳児の人数が増え、まとまった集団のなかで教育・保育を行えるようになったことも大きい。幼稚園部を設けて、幼稚園教育の質の向上について取り組んでいけることになったことも良かった点である。中区内の3園では幼稚園教育研修事業で、県内の幼保連携型認定こども園や町内の小学校へ研修に行っていることも大きなメリットである。

・教育・保育の質の向上は、具体的にどのようなことをやっていくのか。

→平成28年度と29年度の2か年をかけて町内5歳児教育共通カリキュラムの作成を考えている。両キッズランドと3認定こども園では、それぞれ0歳児から5歳児までのカリキュラムをもっているが、小学校へ接続するための大切な1年間である5歳児の教育カリキュラムについて、多可町オリジナルの共通したものを作成したいと思っている。小学校にもご協力いただき、より良いカリキュラムの作成を計画している。

・嘱託職員の給与は、民間園に比べてどうなのか。安い賃金で正職員と同じ内容の仕事をさせていること自体が問題なのではないか。

→公立の嘱託職員は民間園の正規職員に比べて給与は低い状況である。キッズランドの保育士の正職員率は3割を切っている状況で、嘱託職員にもクラス担任をしてもらっている。民営化になれば、法人にできるだけ正規職員として採用していただくように調整していきたいと考えている。

・民営化になれば、体操や英語教育など特色ある教育方法が可能であるなどのメリットが言われているが、キッズランドできちんと教育・保育がされているので、その点だけをアピールするのはどうなのか。どうも「アメ玉」のような気がする。土地・建物は無償でという計画であるが、営利を目的とした法人に無償というのはどうかと思う。

→法人に受けていただきやすい条件とするために、また譲渡後は維持管理をすべて法人でお願いしたいため、無償で検討している。利益が出た分は、施設改修のための積立て、保育士の賃金アップ、特色ある教育のために使っていきたいと考えている。

・1月に開催の懇談会時と説明内容は同じであるし、何の進歩もない。より多くの意見を聴いて判断すべきである。

→現時点ではこの程度までしか資料を出すことができないし、これまでの協議経過もお伝えした。今後も保護者の皆さんを中心に、より多くのご意見を聴いて調整をさせていただきたいと考えている。

・町内法人で受けてくれるところがなければ、民営化なしとのことであるが、なんとしてでも民営化をやる気はないのか。民営化することによって浮いた経費で、どのようなこと

を計画しているか。

→なんとか町内の法人に受けていただけるように調整していきたいと思う。民営化によって節減できた経費は、子どもたちのために使いたいと考えている。例えば、5歳児の保育料を無償にしていとか、4歳児も含めて検討するとか、子ども・子育て会議で協議していきたいと考えている。

・保護者懇談会用に、Q&A のようなものを作っていたらどうか。

→前向きに検討させていただく。

・民営化が決まったとして、移行は早くて何年になるか。

→平成29年3月に方向性を出し、早く進んだとして平成31年4月に民営化実施ということになる。

・なかなか資料で説明をしても理解してもらいにくいので、たか TV で分かりやすく説明してもらってはどうか。

→検討させていただく。

・キッズランドの保護者との懇談会をさらに計画されているようだが、お母さんたちが参加しやすいように託児を検討してもらってはどうか。

→保護者会、キッズランド所長と調整させていただく。

・保護者にとって公立、民営などはあまり関係ない。要は、教育・保育の質の問題である。しっかりやってもらいたい。

→教育委員会事務局も、教育・保育の質向上は一番大切なことと捉えている。幼小連携も図りながら、進めたいと考えている。

・社会福祉法人であれば、保育所等の経験がなくても受け手になれるか。

→経験や運営のノウハウがないと、すぐに引き受けていただくのは無理であると思うし、保護者の皆さんにも理解してもらえないと思うので、受け手になることは難しいと考える。今後、子ども・子育て会議で協議していくことになる。

・今後、子どもの数が減っていくと思うが、町内5認定こども園でずっと運営できていくのか。

→子どもの人数が減っていても、園の規模が小さくなれば子ども1人当たりの給付単価が上がり、運営には問題ないと考えている。今は両キッズランドとも150~160人規模であるが、保育所や認定こども園の規模としては70人から90人が良いと言われている。よって、将来的にもうまく運営できていくと思う。

・公私連携方式でずっと運営してもらえるのか。

→協定書にきちんとうたい、ずっと公私連携方式で運営していく。

・前日の八千代区でも「地域立はどうか」という意見が出た。ぜひ検討していただきたい。

→子ども・子育て会議で協議させていただきたい。

公私連携による両キッズランドの運営にかかる 未就園児保護者の皆さんとの座談会記録（子育て座談会）

平成28年6月30日（木）10:00～11:30

場所：教育委員会会議室

普段、子育てふれあいセンターを利用して、これからキッズランドやこども園に通う予定の未就園児保護者の皆さんとの座談会を開催した。

出席者：14名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料による説明

質疑応答・意見交換

■主な意見と内容

- ・法人の決定はどのようにされるのか。かみもやちよも同じ法人になるのか。
→町内の社会福祉法人で、保育所や認定こども園などの運営実績のある法人にお願いしたいと考えている。公募を行い、選定委員会で決めたいと思う。選定委員会の結果により、両園とも同じ法人になる場合もあるし、違う法人になる場合もある。
- ・中区と加美区の小学校の統合計画は。
→複式学級ができることが分かった段階で「地域の学校教育のあり方を考える会」を設置し、検討をしていくことになる。当分の間は、複式学級ができることはないの、今のところ予定はない。
- ・第一希望の園に入ることが可能か。
→入園希望を第1～第3希望まで記入していただいているが、これまではほぼ皆さんに第一希望の園に入園していただいている。ただ、中区内の3園については3～5歳児の定員が各35人となっているので、途中入所が厳しい場合もある。
- ・都市部の民間園では英語教育や音楽教育、体操指導など特色ある保育をされているところがあるが、特色ある教育についてどう考えるか。
→年齢ごとの教育・保育カリキュラムのほかに、特色ある教育プログラムを取り入れることは良いことだと考えている。法人選定の際には、選定委員会でそういった部分を十分に考慮して決めていきたい。
- ・近いうちに中学校が一つになるという噂を聞くが、どうなのか。
→学年のクラスが1学級になることが分かった段階で「地域の学校教育のあり方を考える会」を立ち上げて、地域の皆さんと一緒に検討していくことになる。
- ・旧中町幼稚園の園庭は開放されているのか。誰が使ってもよいのか。
→保護者の立会いのもとであれば、どんどん使っていただけたらよい。今後、遊具の安全点検を行う予定なので、保護者の責任のうえで安全に注意してお使いいただきたい。
- ・経済的なことを考慮して、もっと早くに小学校の統合をできないのか。
→地域に根ざした学校運営を実施しているので、複式学級ができる出ることが分かった段階で「地域の学校教育のあり方を考える会」を立ち上げ、保護者や地域の皆さんと協議を進めていくことになる。
- ・幼稚園の保育料は、8歳までの範囲で子どもがたくさんいる場合、2人目の子は半額、3人目は無料だが、8歳の年齢を引き上げられないか。
→国の政策で決まっていることなので、全国どの自治体も同じことになる。国の施策以外の部分で、多可町の保育料軽減のあり方を検討したいと考えている。

・民営化によって浮いた町のお金はどのように使うのか。また法人の利益について町はどのように指導するのか。

→5歳児の保育料無償化や4歳児の保育料無償化などを含めて、今後、多可町子ども・子育て会議で検討していきたいと考えている。また、法人に対しては、利益の出た部分は保育士の処遇改善、特色ある教育・保育にしっかりお金を回していただくように指導していきたい。

・上の子のキッズランドかみ制服があるが、民営化になっても使えるか。

→保護者の皆さんの声を大切にしていきたいと考えている。そのような意見があれば、三者懇談会（保護者、町、法人）で協議し、できるだけ保護者の負担が増えないようにしていきたい。

・民営化の判断は、どのようにされるのか。

→地域や保護者の皆さんとの懇談会、またこれからキッズランドや認定こども園に通っていただく児童の保護者の皆さんとの懇談会など、いま皆さんからご意見をいろいろいただいているところである。今後、多可町子ども・子育て会議で協議し、最終判断は町議会の決定になる。

・子どもの数がどんどん減ってきているが、町として子育て政策はどのように考えているか。

→このまま人口減少が進めば2060年に9,600人まで減ってしまう予定であるが、なんとか人口減少を食い止め12,300人くらいに留まるようにしたいと多可町プラチナ戦略を作成したところである。仕事、雇用の問題はもちろん、とにかく若い人たちに多可町に住んでいただき子育てしていただきやすいような施策を考えていかなければならないと思う。子育て支援の部分については、保育料の軽減策などを含め、今後、子ども・子育て会議で協議していく。

・キッズランドの正職員のなかに、評判の悪い先生がいる。園に残らないようにしてもらえるのか。

→正職員は1~2名は数年間は町からの派遣としてこども園に残る計画であるが、数年後には全員が抜けてしまうことになると考えている。でも、嘱託職員の皆さんにはこども園の職員として残っていただきたいと考えているので、ほとんどの先生が残ることになると思う。

・町内の法人と話はされているのか。仮に宗教色の強い法人が受けることになった場合、どのように町は関与されるのか。

→町内の法人とは、どこも話を進めていることはない。どこが受けていただけるかも分からないが、できるだけ町内の法人に受けていただけるような条件を考えたいと思う。公私連携方式で認定こども園を運営する予定で、しかも最初の数年間は公立から園長を派遣したいと考えているので、しっかり指導をしていきたい。公私連携なので、強い宗教色を出さないように指導していく。

（教育長から）

・公立と民間の運営について、公立でないとダメなのか、民間のほうがいいのか、皆さんはどのようにお考えか。

→自宅から近いところが安心できるので、公立、民間にはこだわらない。

→自宅からの近さ、安い保育料、園の雰囲気的大事なので、公立、民間は関係ない。民営化になっても、教育委員会からしっかり指導してほしい。

→公立、民間にはそれぞれ良さがあるので、どちらが良いとは言えない。公立園には甘さがあり、民間園が良いかもしれない。職員の意識改革が大切なので、公立・民間にかかわらずしっかり指導してほしい。

→自宅からの近さ、保育料、子どもが喜んでいく園であれば、公立、民間は関係ない。

→中区内のこども園のように、スポーツ講師を招いて運動教室みたいなことをぜひやっていただきたい。

- 自宅からの近さ、保育料が大事。公立、民間にはこだわらない。
- 自宅からの近さ、保育料が大事。公立、民間にはこだわらない。公と民の良いところを織り交ぜながら、良い園づくりをしてほしい。
- 公でも民でも OK。通いやすく、のびのびと保育してもらい、近い園に入りたい。
- 安全・安心な園、楽しく通える園、近くに行ける園であれば、公立、民間は関係ない。
- 公立、民間、どちらでもよい。親同士のコミュニケーションが取りやすい園がよい。一気に先生が入れ替わることをないようにしてほしい。また、年度によって保育料が高くなったり、安くなったりすることのないようにしてほしい。
- まだ子どもが1人目で小さいので、よく分からない。先輩の皆さんの話を聞いて判断していきたい。
- 公立でも民間でも、あまり関係なし。これまでキッズランドで行ってきたお出かけ保育や行事などは引き継いでもらいたい。

H28. 7. 3キッズランドかみ保護者懇談会記録

「公私連携による両キッズランドの運営(民営化)について」

平成28年7月3日(日) 09:00～10:30
キッズランドかみ遊戯室

出席者：保護者 19名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料 Q&A による説明

意見交換会

■主な意見と内容

- ・先日、公私連携幼保連携型認定こども園の先進事例、宍粟市千種町の「ちくさ杉の子こども園」を視察されたようだが、課題はあったか。
 - 昨年の4月に公立の幼稚園3園と民間の保育園1園を一つに統合し、公私連携幼保連携型認定こども園にされた。幼保を一つにされたということで、最初のころは「幼稚園のときはこうだったのに」「保育園のころはこうだったのに」といった保護者からの不満が絶えなかった。公立から派遣の園長が、いろいろ苦勞をされたようである。それと、保育士の確保に一番苦勞されている。
- ・「公私連携」とは、具体的にどのようなことを協定されるのか。
 - 町と法人が協定の期間、確保すべき教育・保育の内容、職員配置、休園日、合同保育・引継ぎ保育の方法などを協定する。保護者の皆さんからこのことはぜひ協定書のなかに盛り込んでほしいという内容があれば、協議していきたい。
- ・5歳児教育共通カリキュラムを2年間かけて策定されるようだが、0～4歳児用も作成を検討していただきたい。
 - まずは5歳児用のカリキュラムに取り掛かっているが、今後は0～4歳児用の共通カリキュラムも検討していきたい。
- ・合同保育と引継ぎ保育について、具体的に説明をしていただきたい。
 - 運営を受けていただく法人が決まれば、民営化前の1年間は法人から保育士を1～2名キッズランドへ派遣していただき、合同で保育していきたい。また、民営化実施になれば町職員という立場で園長、もしくは園長と保育士1名を法人に派遣したいと計画している。こども園のトップを町職員で置き、園の運営が落ち着くまでは町が主導することも考えている。
- ・法人の選定委員会に保護者会代表を入れられるようだが、私たち全員の意見は反映されるのか。
 - 選定委員会には保護者会の代表1～2名に入っていただきたいと思うが、より多くの皆さんのご意見をどのように反映させていくのかは、今後の検討材料とさせていただきたい。
- ・民営化になって、これまでと大きく変わることはなく、むしろ良くなると考えてよいか。
 - 国県からより多くの補助金を受けることができるので、教育・保育の一層の充実や保護者負担の軽減を進めていきたい。5歳児や4歳児の保育料無償化などを子ども・子育て会議で協議していく。無償化といっても、給食費と教材費はいただきたいと考えている。
- ・嘱託職員の皆さんはほとんどが残られる計画とお聞きしたが、こども園の正規職員として働きやすいように、また自分の子どもの園行事にも参加しやすいように、運動会など町内学校園の行事などができるだけ日が重なることのないようにしてほしい。
 - 毎月、公立・民間すべての園の園所長会を開催しているので、園所長会議でできる限り調整していきたい。

- ・キッズの正職員の皆さんは、本当にすべていなくなってしまうのか。
→民営化が決定すれば、職員1人ひとりと調整することになるが、こども園の職員として現場に残りたいという人は残っていただくことになる。しかし給与の面で合わないと思うので、ほとんどの職員が役場の一般事務職に異動になると思う。
- ・民間の法人の運営になって、園の雰囲気がガラッと変わってしまいそうな気がする。
→そのようなことのないように、公募の条件、内容を検討していきたい。プロポーザル方式で行うが、多くの保護者の皆さんの意見を反映できるようにしていきたい。
- ・応募する法人が1社の場合は、1社に決まってしまうのか。受けた法人が撤退したら、本当にどうなるのか。
→選定委員会で「この1社はふさわしくない」という判断をされれば、民営化はできないと考えている。町内の法人はどこもしっかりとやっていただけており、きっと良い提案をしていただけたと思う。撤退ということは絶対あってはならないことなので、そうならないように良い法人に受けていただきたいと考えている。万一、撤退するようなことがあった場合、町が責任をもって事後の調整を図っていく。
- ・民営化になれば先生が増えるという説明があったが、保育士以外にスクールカウンセラーや臨床心理士は採用されるのか。
→公立園も民間園も、スクールカウンセラーや臨床心理士は採用していない。必要な場合は、町が依頼した臨床心理士を各園に派遣している。
- ・保育方法が大きく変わることはないか。法人の運営になり、体操や音楽などの特色ある教育が追加されるのか。
→どの園も国の指針に基づいて教育・保育をしており、保育方法が大きく変わることはない。民営化になれば、体操や音楽など特色ある教育・保育をしていただけたと考えている。
- ・嘱託の先生が毎年たくさんやめられると、子どもたちは混乱してしまう。今の嘱託の先生にはできるだけ残ってほしい。
→毎年、多くの先生が民間園から引き抜きされている実態がある。そうならないように、町としても少しずつ賃金アップを行い、また職員の皆さんと話し合いを進め、できるだけ園に残っていただけるように調整をしていきたい。
- ・キッズの正職員が15人抜けるとなると、新たに採用することになると思うが、確保できるのか。
→確保しなければ子どもさんを預かることができないので、なんとしても確保しなければならない。そのために、良い条件の保育士賃金を明示できるように法人と調整していきたい。もし確保できなければ、町職員を派遣する。
- ・法人の撤退が絶対にならないのか、不安。万一、撤退した場合、町は責任をもって対応してもらえるのか。
→万一、法人が撤退した場合は、町が責任をもって事後の調整を図っていく。
- ・保育士の先生が長く仕事ができ、安定した生活が送れるように、保育士の処遇改善はきちんとすべきである。きちんと取り組んでほしい。
→おっしゃるとおりである。保育士が確保できるように、公私連携で保育士の処遇改善について協議していきたい。
- ・受けることになった法人が撤退しても、園を閉めることはないかと理解してよいか。
→園を閉める訳にはいかない。町が責任をもって事後の調整を図っていく。

・ 民営化は時代の流れで仕方のないことだと思うが、民営化によってお金が節減できた分、どのようにしてもらえるか。また、法人に対してもどのように指導するのか。

→町として経費節減ができた分は、保護者の皆さんに保育料軽減の方法で還元していきたいと考えている。また、法人に対しては教育・保育の一層の充実を図ること、保育士の処遇改善をきちんと行うこと、特色ある教育・保育を行うこと、子どもたちのために使うことなどを指導していきたいと考えている。

・ 公私連携法人の職員ということは、所属はどこになるのか。

→所属は、社会福祉法人の職員になる。

・ 子ども・子育て会議の委員としてできるだけ保護者の皆さんのご意見を吸い上げたいと思うが、なかなか難しい面がある。保護者の皆さんに園だよりなどで、アンケートを取っていただくということは検討してもらえないか。

→アンケートを取ることは、特に考えていない。保護者の皆さんにご理解いただけるように、十分な話し合いを重ねることを大切にしていきたい。民営化Q&Aや協議の経過をまとめたプリントを保護者の皆さんにこまめに配布して、ご理解を得ていきたい。

H28. 7. 7キッズランドかみ保護者懇談会記録

「公私連携による両キッズランドの運営(民営化)について」

平成28年7月7日(木) 19:00～20:40
キッズランドかみ遊戯室

出席者：保護者 16名、町議1名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料Q&Aによる説明

意見交換会

■主な意見と内容

・「受ける法人がない場合、民営化はなし」と書かれているが、ということは公立で運営していくことも可能であるということだ。それなら無理して民営化しなくてもよいのではないか。現状の公立運営で保護者は満足しているので、公立存続の方向で検討してもらうことはできないか。

→なんとか民営化できるように、法人に受けていただけるように条件を検討していきたいと考えている。現状の公立運営では嘱託保育士の確保が難しいこと、また民営化すれば国・県からより多くの補助金を受けられること、そしてより充実した教育・保育を行うことが可能になることなどの理由から民営化を検討している。国の政策に従い、多可町の将来を考えていくと、公立で運営ということは難しいと考えている。

・これからどんどん少子高齢化が進んでいき、10年後、20年後には子どもの数が少なくなっても法人が運営していけるのか。40年後に子どもがどのくらいになるのか、後日、数字を示してほしい。

→現在のキッズランドかみ園児数は約160人であるが、子どもの数が減っていても、子ども1人当たりの運営補助単価は上がることになるので、経営は成り立つ。国の政策で補助単価は決定されるので、十分に運営は可能と考える。教委事務局では40年後までの各園児童数を予測しており、40年後でも町内5園体制で運営が成り立つとみている。手元にデータがないのではっきりした数字は分からないが、30年後で約半分の子ども数まで減少すると予測している。

・利益が出ないと法人が運営できないと思うが、大丈夫なのか。

→国策で保育所、認定こども園等の運営補助がされているので、必ず利益が出る仕組みになっている。その点は大丈夫である。

・平成29年3月に方向性を出すと説明があったが、最終判断はどのようにして決めるのか。

→保護者会、地域の皆さん、未就園児保護者の皆さん、区長会、地域協議会などこのような懇談会の場を重ねていき、皆さんのご意見を集約して多可町子ども・子育て会議で協議する。最終的には、子ども・子育て会議の意見を参考に、町としての方向性を出し、町議会に判断をしていただく。

・最終判断をする材料として、アンケートは取らないのか。

→アンケートを取ることは、特に考えていない。保護者の皆さんにご理解いただけるように、十分な話し合いを重ねることを大切にしていきたい。

・民営化になると法人のカラーが出て、雰囲気がガラッと変わるような気がする。加美区では1園しかなく、保護者としては選べないので、町はどのように考えているか。

→法人のカラーに染まることのないように、これまでの園の雰囲気を引き継いでいただけるように、数年間は町から園長を派遣し、主導していきたいと考えている。おっしゃるとおり加美区には1園しかないので、選択肢がない。保護者や地域の皆さんに受け入れていただける法人に、運営を引き受けていただきたい。町内の法人

とは園所長会や園訪問などで絶えず交流があり、各園の様子も把握させていただいているが、どの園もしっかり教育・保育をしていただいているので、心配なしと考えている。

- ・ 5歳児教育共通カリキュラムとは、どのようなものか。

→町内5園では、年齢ごとのカリキュラムを持っているが、小学校へ接続するための大切な1年間である5歳児用のカリキュラムをまず共通したものにしていきたいと考えている。第1四半期にはこんな内容をやり、この程度のことまでできるようになりましょう、第2四半期にはここまで、第3四半期にはここまで、そして卒園するまでにはこの程度のことができるようにしようというのがカリキュラムである。各園のカリキュラムを持ち寄り、それを参考により良い多可町版の共通カリキュラムに仕上げていきたいと思う。

- ・ 給食の方法、食材はどうされるか。

→自園調理を基本として、民間園では栄養士と調理師を配置して食材の購入、給食調理をしていただくことになる。食材について、たとえば町内の食材をできるだけ使用するよう協定書に盛り込んでほしいということであれば、検討する。

- ・ 通園バスは、どうなっていくのか。

→現在、加美区3台、中区と八千代区は2台ずつ、計7台のバスを町が走らせている。民営化になっても、この方法は継続したいと考えている。もう少しバスの利用が増えるようにしていくにはどうすればよいか、保護者の皆さんと、また子ども・子育て会議で検討していきたい。

- ・ 以前、キッズランドで独裁的な教育・保育をされ、保護者から非難された職員がおられたが、民営化になるとさらに不安になる。

→園について、また職員について不満やご意見がある場合は、園長や教育委員会に遠慮せずに言っていただきたい。このことは、現在も、そして民営化後も考え方は変わらない。保護者の皆さんからご意見をいただければ、すぐに対応、改善したいと思うので、よろしく願いしたい。

- ・ 以前は町外に住んでいて、民間の保育所に子どもを通わせていた。毎週火曜日に体操の先生がお越しになり体操を教えてもらっていたが、民営化になればそういうことも考えてもらえるのか。

→民営化になれば、運営法人が国の指針に基づいて行う教育・保育以外に、体操や英語、音楽など特色ある教育・保育を行うことができると思う。選定委員会で、良い提案をされた法人を選んでいただきたい。そして、そういった要望は三者懇談会で保護者の皆さんからご意見を出してほしい。

- ・ 以前、町外に住んでいたときは、通園バスの利用者が減り、バス料金が値上げになったときがあった。バス利用料の値上げはないか。

→バス料金の値上げは、今のところ考えていないが、実態としては、通園バス7台の年間運行経費に4,500万円かかり、保護者の皆さんからは利用料を年間450万円程度いただいている状況である。近隣市町の状況を聞くと、通園バス自体がないところも多く、多可町はかなり手厚く支援をさせていただいている。それなのに、バス利用者が少ないといった現実があるので、今後は皆さんのご意見を聴きながらバス運行のあり方を検討していきたい。

- ・ 民営化には反対である。保護者や町民にアンケートを取り、民営化に納得されているか、きちんと数字を把握したうえで決定していただきたい。

→アンケートを取ることは、特に考えていない。保護者の皆さんにご理解いただけるように、十分な話し合いを重ねることを大切にしていきたい。

- ・ もし受ける法人がない場合、また結果的に民営化できない場合は、公立で運営されるのか。

→そうなれば公立での運営ということになるが、できるだけ法人に受けていただき、公私連携でより良い運営ができるようにしなければならないと考えている。そのために、土地や建物について引き受けていただきやすい

ように条件を検討していきたい。

- ・民営化になって、どのように良くなるのか、具体的に示してほしい。
→民営化になって、公立園と比較して大きく変わることはないと考えている。しかし、上げるとすれば、町としては
国県からより多くの補助金を受けることができ、教育・保育を一層充実させることができるとともに、保護者
の皆さんに保育料軽減の方法で還元できると考えている。さらに、通常の教育・保育以外の部分で、例えば
体操とか英語とか音楽指導とか、特色ある教育・保育が追加されると思う。
- ・民営化が実現すれば、かなりの経費節減になるという説明を受けたが、具体的にどのようなことを考えているか。
→これから子ども・子育て会議で協議し、また町議会とも調整していくことになるが、5歳児の保育料の無償化、
また4歳児の保育料無償化などを含めて検討していきたいと考えている。

H28. 7. 24キッズランドやちよ保護者懇談会記録

「公私連携による両キッズランドの運営(民営化)について」

平成28年7月24日(日) 09:00～10:10
キッズランドやちよ遊戯室

出席者：保護者4名、町議1名

事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ

こども未来課から資料Q&Aによる説明

意見交換会

■主な意見と内容

- ・民営化になって、公立の正職員が抜けられた後は、どうされるのか。
→嘱託の保育士・幼稚園教諭の皆さんにはほとんど残っていただく計画で、正職員については園長と1～2名の保育教諭に町からの派遣という立場で2～3年間は残っていただこうと考えている。運営が落ち着くまでは園のトップは公立の職員を置き、主導していきたいと考えている。
- ・公私連携の協定期間は何年間なのか。
→協定はずっと続く予定であるが、協定書自体はとりあえず10年間とし、10年経過したときに内容の見直しをかけようと思っている。
- ・民営化をすれば国県から手厚い補助金を受けることができるとあるが、どのようなことに使うのか。
→まず町にとって経費節減できた分は、保護者の皆さんに対して保育料の軽減という形で還元したいと考えている。また、法人については特色ある教育・保育に使っていただくよう指導していきたい。国は「民でできることは民で」の考え方のもと民営化を推進しているので、国の方針に沿って補助金を受けることを考えている。
- ・受ける法人は、町内法人か。かみもやちよも、同じ法人になるのか。
→できるだけ町内の社会福祉法人に受けていただきたいと考えている。受ける法人は別々の法人になるかもしれないし、同じ法人になるかもしれない。保護者、地域の方を含めた選定委員会で決めていただく。
- ・嘱託の先生になんとか残ってほしい。慣れ親しんだ先生が、いつの間にか辞めてしまったことがある。保育士の賃金アップは計画されているか。
→ここ数年間、民間園からの引き抜きにより多くの保育士・幼稚園教諭の皆さんが辞められた。嘱託の先生方には全員になんとか残っていただくように、調整していきたいと考えている。民間園においてはここ数年、処遇改善が顕著に行われており、公立園も今年から少しずつ賃金アップを図っている。民営化後も保育教諭の賃金アップについて、町と法人と一緒に考えていくことが大切であると認識している。
- ・民営化になって、法人のカラーに染まることはないか。保護者の意見はどんなふうに取り入れられるのか。
→公私連携方式なので、町の意見はしっかり言っていくつもりである。年2回の園訪問指導のほかに、三者懇談会(町・法人・保護者)を定期的に開催していき、保護者の皆さんの意見は大切にしていきたいと考えている。保護者と法人の間に町が立ち、保護者の皆さんの意見は法人に対して伝える姿勢で臨んでいく。
- ・ずっと公立園長に残っていただくことは無理なのか。
→町が給与負担し公立園長の派遣をずっと続けることはできない。数年後には民間法人の園長が就任されることになる。

H28. 7. 26キッズランドやちよ保護者懇談会記録

「公私連携による両キッズランドの運営(民営化)について」

平成28年7月26日(火) 19:00～19:55
キッズランドやちよ遊戯室

出席者：保護者 4名、町議 1名
事務局：岸原教育長、こども未来課 今中、市位

内容：教育長あいさつ
こども未来課から資料 Q&A による説明
意見交換会

■主な意見と内容

- ・ これまでは人事異動があったのか。民営化になれば、職員は固定されるのか、それとも異動はあるか。
 - 公立園のなかで、かみとやちよは年に1回、数名の職員を異動している。民営化になり、かみとやちよを同じ法人が受けることになれば異動はあるかもしれないが、別々の法人が受けることになれば、まず異動はない。しかし、もし中区のこども園が受けることになれば、こども園同士での異動はあるかもしれない。
- ・ 手を上げる法人はあるのか。調整はされているのか。
 - 現時点で、どこも調整はしていないし、手を上げていただく法人があるかどうか分からない。できるだけ町内の法人に受けていただきたいと考えている。
- ・ キッズの正職員は夢をもって就職し、プライドをもって仕事をされているのに、民営化についてどういう思いを持たれているか。正職員が数年後にはすべて抜けてしまうようだが、保育の質は下がらないか。
 - 夢と希望をもって就職され、誇りをもって仕事をしていただいているので、今は複雑な思いであると思う。現状の正職員の率は3割だが、民間の認定こども園になれば正職員の率は6～7割くらいまで上がると予想され、今以上に誇りとやりがいをもって仕事をしていただけたらと考えている。キッズランドの正職員の抜けたあとは民間法人の保育教諭が採用されるので、保育の質は下がることはない。
- ・ 公立の職員をずっとこども園に派遣することは無理なのか。
 - 町職員という立場で、町が給与を負担して、こども園にずっと職員を派遣することは無理だと考えている。数年後には民間法人の園長が就任されることになる。
- ・ 子どもたちがたくさん通ってこそ運営が成り立つと思う。中区のこども園では、新規児童の獲得について営業努力のようなことをされているのか。
 - 中区内ではほとんどの児童が自分のエリアのこども園に通うという状況であるが、なかには保護者の希望で他地域のこども園に通われるケースもある。各園ではオープン保育園などを通じて広く未就園児の保護者の皆さんに園へ来てもらう取組をされている。
- ・ 今年の4月当初、通園バスのダイヤが変わり、到着時刻がかなり早まるがあった。できるだけ予定時刻どおりの運行でお願いしたい。以前通っていた加古川市の園ではバスの通過時刻をメールで配信するサービスがあったが、検討してもらえないか。
 - 4月当初、ご迷惑をおかけしたことは申し訳ない。できるだけ予定どおりの時刻で運行できるように努める。通過時刻のメール配信は、今後の検討事項とさせていただきたい。

・幼稚園の一時預かりで、午後1時30分から2時間程度預かってほしいと思ったが、お昼寝用ふとんの持ち込みが必要と言われた。バス通園であり、ふとんの持ち込みができないので、もっと柔軟な対応をしてほしかった。

→まず、所長に事実確認をさせていただく。一時預かりを気軽にご利用いただけるように、今後、柔軟な対応を考えさせていただきたい。

(教委事務局から)

・公立と民間の運営について、公立でないとダメなのか、民間のほうがいいのか、皆さんはどのようにお考えか。

→自宅から近いところで、地元の園に入園させたいと思う。公立、民間には特にこだわらないが、いずれにしても町がしっかり監督してほしい。

→民営化に賛成である。今まで以上に充実した教育・保育に期待したい。家内が中区の保育園に通っていたので、家内は民間園について評価している。

→5歳児なのでもう卒園だが、今まで公立園でお世話になって本当に良かった。民営化されるのは、良いと思う。民営化になり、いろんなことが充実して、うらやましいと思う。5歳児のカリキュラムも考えられているし、期待している。

→本日は、現在の保護者として、また未来の保護者の皆さんのためにも、間違った選択をしないように懇談会に参加した。民営化になって、受けた運営法人が利益ばかりを追求すると保育の質が下がりそうな気がするし、子どもたちにしっかり教育・保育をしてもらえるのかという不安は多少ある。

→中区内の認定こども園には5年前から年2回の園訪問をさせていただいているが、どの園も教育・保育にしっかり取り組んでいただいております、何の心配もないと思う。これまで以上に園との関わりを強くし、公私連携で運営をしていきたい。

八千代区地域協議会 記録

平成28年12月14日(水)19:30～20:42
八千代プラザ会議室3

◆出席者（敬称略）

杉山 博会長、宮崎八千代副会長、河崎 貢、白石千恵美、門脇教蔵、岸本賢一、
伊藤雄基、数原雅史、川上大輔、河崎富也
岸原教育長、こども未来課 今中、市位
藤本八千代地域局長、松本課長補佐

■主な意見と内容

・説明資料のQ&Aは、どこで出た質問に対する回答なのか。この資料は初めて見る資料だが、説明会用の資料か。また、これまでの懇談会開催の経緯を教えてほしい。

→今年1月から二十数回にわたり地域や保護者の皆さんとの懇談を重ねてきた。懇談会で出た主な質問と回答を載せている。懇談会用の資料であるが、多可町教育委員会ホームページで公開している。また、これまでの経緯と懇談会記録はホームページに掲載しているが、両園の保護者の皆さんと、また地域の皆さんと、またこれからキッズランドに通われる未就園児の保護者の皆さん、地域協議会等と懇談会を開催した。

・平成29年3月議会に民営化についての議案を上程すると説明があったが、それは町民の合意が得られたので、上程するということか。

→懇談会を開催するなかで、公私連携方式でなら概ねご理解をいただくことができたという理解した。これまでの経緯、また会場で出た意見を子ども・子育て会議で委員にお伝えし、11月1日に開催の第12回子ども・子育て会議で採決を取った。その結果を受けて、これから3月定例会に向けて調整をしていきたいと考えている。

・本日の会議で出た意見は、聴いてもらえるのか。3月議会に向けて、私たちの反対意見をまとめて、町へ提出することは可能か。

→もちろんご意見を聴かせていただくために、ここに来ている。本日いただいたご意見もまとめて、大切なご意見として議会への提出を考えている。地域協議会が意見をまとめて町へ出されることについては、可能である。

・地域協議会には諮問しなかったのか。

→今年1月の段階で、地域協議会事務局の町地域振興課に確認をしたが、諮問事項ではないという回答を得た。加美区と中区の地域協議会から説明と懇談の依頼を受けたので、両区とも今年2月に懇談会を開催した。八千代区地域協議会だけ開催しない訳にはいかないので、地域局長に3～5月あたりの懇談会開催を申し入れていたが、本日の開催となった。本当は6月の「地域との懇談会」までに開いてほしかった。

・最初から民営化が決まっていて、ルールに沿って物事を進めているのではないか。また運営法人についても、中区の3園に決まっているような話も聞くが、水面下で調整をしているようなことはないか。町外の法人でもよいのではないか。

→決して最初からすべて決まっている訳ではなく、皆さんとの懇談を開催していくなかで、方針を決定していきたいと考えている。受けていただく法人がなければできないことであるし、また法人から応募がたくさんあったとしても、住民の委員からなる選定委員会で「ふさわしい法人なし」という判断になれば実現できないと理解している。町内の法人で保育所等の運営実績があるところは、中区のみどり、あさか、四恩こども園、八千代区のらくえん、そして加美区の千ヶ峰会の5法人である。保育所等の経験はないが、中区の法人からぜひ参加させてほしいという申し出があり、子ども・子育て会議で協議の結果、スタート地点に立っていただくことはよいのではないかとということになり、北はりま福祉会、那珂の郷の2法人を加え、町内7法人で今のところ考えている。保護者懇談会で「近隣市の法人も含めては」というご意見もいただいたが、多可町の子どもたちを責任感と使命感を持って末永く教育・保育をしてもらえる町内の法人に限定しては、との結論に至った。

・キッズランドの正規職員の割合が約3割ということだが、町は合併当初から民営化を見込んで正規を採用していないのではないのか。正規を採用せずに、嘱託職員で安く済ませ

ている、教育にお金をかけていないということではないのか。

→ご指摘のとおり町は合併当初から、正規の保育士・幼稚園教諭の採用は行わない方針を出し、多可町行財政改革大綱に沿って民営化の計画を検討してきた。国からの支援をうまく受け、教育・保育の質を高めていくことを目標に取り組んでいることをご理解いただきたい。

・平成29年3月に民営化が決まったとして、今後のスケジュールを教えてください。

→平成29年6月くらいに運営法人を公募し、7月にプレゼンテーション、9月くらいに法人の内定を行いたい。平成29年度は法人を決めるということになる。30年度は、法人が決定したことを受けて、法人からキッズランドへ保育教諭の派遣(合同保育)を行い、31年4月に民営化の実施を計画している。もちろんその間に、保護者説明会は入れていく。平成31年度は、両こども園へ町職員という立場で所長1名、保育士1名を2～3年程度派遣したいと考えている。スムーズな移行ができるように、引継ぎ保育を計画している。

・キッズランドかみは、建ってからまだ5年である。それなのに、どうして民営化なのか。子どもの数がどんどん減っていくことは分かっているのに、それなら八千代と一緒にして施設を1つ造ってもよかったのではないのか。将来を考えて、やっているのか。

→キッズランドかみがオープンしたのは、平成23年4月。実は、計画の段階である平成21年、22年当時から民営化も視野に入れてキッズランドかみを建設した。町教委では10年後、20年後、30年後の児童数の推移を見込んでおり、30年後も加美区1園、八千代区1園、中区3園で運営できていく数字を予測している。ちなみに、キッズランドやちよ(八千代区)は現在は約150名であるが、30年後は83名と予測している。

・民営化になれば、経費の節減になると説明があったが、公立運営と民間運営の違いは。

→公立園には交付税措置があるものの、国からの直接的な運営補助はない。一方、民間の保育所、認定こども園等には見える形で運営補助がある。子ども1人に対して年齢ごとに単価が違い月額いくらで補助金が出る。園はそのなかから保育士の給与、施設の維持管理費などを支払っている。運営補助金は、国が1/2、県が1/4、町が1/4を負担している。また、民間園には施設の建設、改修をする際にも補助金制度があるが、公立園にはない。

・経費の節減ができた部分は、確実に子どものために使ってもらえるのか。加美区や八千代区の子どもたちに還元されるのか。

→いくら節減できたので、加美区と八千代区の子どもたちに限って還元することはできない。多可町で子育てしやすいように、また多可町の子どもたちがより質の高い教育・保育が受けられるように、子ども・子育て会議を中心に、また保護者の皆さん方のご意見もお聴きしながら検討していきたい。

・公私連携ということだが、将来に渡って、30年後も町はきちんと意見を言えるのか。

→公私連携の協定を町と法人が交わすことになり、ずっと将来に渡って協定を守っていく。もちろん町から意見が言えるし、言っていく。協定書の内容は、今後十分に議論していきたい。

・4, 5歳児の保育料無償化は、もう決まっているのか。

→子ども・子育て会議として方針を検討し、これから議会と調整をしていく。平成29年3月議会で平成29年度予算として承認をいただきたいと考えているので、議決されれば平成29年度からの実施となる。

・多可町の子どもの数がどんどん減っている。子育てしやすい町として、より多くの若者に住んでもらうために0～3歳児の保育料の軽減は考えているのか。

→お子さんが小さいうち、つまり2歳児くらいまではできるだけご家庭でみていただくことが望ましいと考えている。0～2歳児を無償化にすると、入園希望が増えすぎてお預かりできなくなることも予想される。しかしながらすべての家庭が自宅で保育できるという訳ではないので、0～3歳児についても保育料の軽減も含めて子ども・子育て会議で引き続き検討させていただきたいと思う。子育てしやすい町、多くの若者が住む町をアピールすることはとても大切であるので、広報のあり方も含めて検討させていただきたい。

- ・法人が受けるということは、法人の会計で収支決算をするということになるのか。
→社会福祉法人の会計で運営をしていただき、決算をしていただくことになる。
- ・土地は有料賃貸、建物は無償譲渡という案だが、建物を法人に譲渡した後に、もしも法人が撤退することになったら、建物は町に戻すことができるのか。
→そんなことがあってはならないが、もしそうなった場合は町へ建物を返還していただき、町が責任を持って運営していくことになる。
- ・子どもの数がどんどん減っていくのに、法人として経営が成り立つのか。撤退してしまうのではないのか。
→子どもの数が減っていても、園の定員が下がれば児童1人あたりの単価が上がることになるので、運営できなくなることはまずない。国が示した単価があるので、法人にとって必ず利益が出るように設定してある。
- ・正規職員は全員が役場の一般事務職に異動してしまうのか。正規職員の率が上がるとあるが、どういうことなのか。
→民営化が決定すれば、職員1人ひとりと調整をすることになるが、ほとんどの正規職員が役場の一般事務職に異動になると予想される。どうしても保育現場に残りたい人は、法人に採用してもらうことになる。両キッズランドの職員のうち7割が嘱託であるが、嘱託職員のほとんどのに残っていただき法人の正規職員として採用してもらうように調整したいと考えている。そうなれば、今よりも正規率は高くなると考えている。
- ・民営化になっても、保育料が高くなることはないのか。4，5歳児の無償化は続くのか。
→保育料は町内統一料金として町が決めているので、民営化になったからといって高くなることはない。町内4，5歳児の無償化は続けていきたいと考えている。
- ・名称は、どうなるのか。
→慣れ親しんでいただいている「キッズランドやちよ」を継承したいと考えている。
- ・プロポーザルはどのような方法で行うのか。
→保護者の方からご意見をいただき、法人のプレゼンテーションとヒヤリングは公開で実施する方向で検討している。ただし選定委員会(審査会)は非公開で考えている。